

道徳年間指導計画 第2学年

重点目標

	内容項目	[主題名] 資料名 (出典)	主題構成の理由	※ねらい ○発問 ◎中心発問	他の教育活動等との関連	『わたしたちの道徳』 「高知の道徳」 との関連	地域・家庭との連携	評価 ・ 振り返り
四月 (第二週)	礼儀	[きもちのよいあいさつ] 1. まほうのあいさつ (みんなのどうとく)	2年生の時期では、特に気持ちのよい挨拶や、言葉遣い、動作などの具体的な指導を通して明るく接することができる児童を育てることが大切である。身近な人々と明るく接する中で、挨拶をしたりされたりすることで、気持ちよく感じる体験を数多くさせながら繰り返し指導し、身に付けさせていきたい。	※気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、だれにでも明るく接しようとする気持ちを育てる。 ○校長先生のお話を聞いたとき、どんなことを思いましたか。 ○運転手さんと女の子になって、どんな気持ちになったか考えよう。(役割演技) ◎校長先生は、どんなことを考えてもらいたかったのだろう。	生活目標 「あいさつをしよう」 生活科 「レッツゴー！葉山たんけんたい」		参観日 保護者・地域の方の参画	教材（ ）
四月 (第三週)	節度、節制	[車に気を付けて] 2. どっきりしたこと (みんなのどうとく)	児童がよりよい生活をしていくためには、基本的な生活習慣をしっかりと身につけさせることが大切である。特に、生命にかかわることについては必ず身につけさせなければならない。自分の生活を振り返り、安全に気を付けて生活をする態度を身に付けさせたい。	※身のまわりの危険に注意し、健康で安全な生活をしようとする態度を育てる。 ○何度も注意されるけんとうみくを見て、みんなは、どう思いますか。 ◎けんとうみくは、交差点でのことを思い出してどんなことを考えていたでしょう。	生活科 「レッツゴー！葉山たんけんたい」 「交通安全教室」 日直・係の仕事	<終末> P. 20、21 を活用する。	保護者・地域の方の参画	教材（ ）
五月 (第一週)	親切、思いやり	[しんせつの花をさかせよう] 3. こころの花 (みんなのどうとく)	より良い人間関係を築くためには、相手に対する思いやりの気持ちが一番大切である。そこで、相手の立場に立って考えたり、援助したりできる実践的な心情と態度を育てたい。また、身近にいる幼い人や高齢者に「～してあげる」という態度ではなく、真心をもって接する心情を育てていきたい。	※お年寄りや困っている人に思いやりの心をもち、親切にしようとする心情を育てる。 ○おばあさんが腕痛くて土いじりができなくなったと聞いた時、まきはどんな気持ちになったでしょう。 ○まきはどんな気持ちでおばあさんの家を訪ねたのだろう。 ◎「こころの花」とは、どんな花のことでしょう。	「遠足」	<終末> P66、67 を活用する。	交通安全教室 保護者・地域の方の参画	教材（ ）

五月 (第二週)	伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する心	[ふるさとっていいな] 4. こいのぼりのニド (ふるさとの志)	伊野町で行われている「紙のこいのぼり」のイベントを通して、自分たちの学校の周りのよさに目を向けて考えるようにし、学校の周りがあるよさが自分たちの生活をつくっていくことに気が付き、自分の住んでいる町に親しみを持ち生活しようとする意欲を育てたい。	※自分の住んでいる地域の自然や文化に触れ郷土の良さに気づき親しみをもって生活しようとする意欲を養う。 ○川の中に入って泳いでいる時、ニドはどんなことを考えていたでしょう。 ◎みんなは、仁淀川にうかぶ、ニドのことをどう思いますか。	生活科 「レッツゴー！葉山たんけんたい」		保護者・地域の方の参画	教材（ ）
五月 (第三週)	規則の尊重	[やくそくやきまりをまもって] 5. 黄色いベンチ (わたしたちの道徳)	人はみな、常に人と人との関わり合いの中で生きていることを自覚させ、社会生活を営む上で、さまざまな行為が他にどんな影響を与えるのか考えさせていくことが大切である。毎日の生活の中で公共物を大切にし、約束やきまりを守ることが、明るく楽しい生活につながることを具体的な生活の場を通して理解させ、みんなで使うものを大切にしようとする態度を育てていきたい。	*おばあさんの言動を通して、みんなで使うものを大切にしようとする態度を養う。 ○紙飛行機を飛ばして遊んでいるたかしとてつおは、どんなことを考えていたでしょう。 ◎スカートのどろろを落としているおばあさんの様子を見て、二人はどんなことを考えたでしょう。	生活目標 「学校のきまりをまもろう」 「遠足」 「交通安全教室」 「避難訓練」	P. 124～P. 127 を読む。 <終末> P. 118、119 を活用する。	保護者・地域の方の参画	教材（ ）
五月 (第四週)	勤労、公共の精神	[はたらくたのしさ] 6. 野さいパーティー (みんなのどうとく)	汗を流して頑張った経験があると働くことの素晴らしさが実感できる。また、働くことを通して自分が人の役に立つ喜びや自分の成長を感じることができる。進んで働くことにより、次第にみんなの役に立つことが自覚できるようになってく。	※友だち同士が協力し合って働く姿から、自分やみんなのためにする仕事を楽しみ、進んで働こうとする態度を養う。 ○朝も昼休みも農園に行くともちゃんは、どんなことを考えていたでしょう。 ○汗びっしょりで世話をしているともちゃんの気持ちを考えよう。 ◎三人で、立派に育った野菜を収穫している時、どんなことを考えていたでしょう。	生活科 「ぐんぐんのびろ」	<終末> P130～133 の言葉に児童の写真を入れ、電子黒板に映す。	保護者・地域の方の参画	教材（ ）
六月 (第一週)	友情、信頼	[ともだちっていいな] 7. きれいな羽 (みんなのどうとく)	よい友だち関係を気付くためには、自分と異なる立場の相手を思いやって、互いに認め合い、助け合うことが大切である。人間関係が広がり、新しい出会いのあるこの時期に「友だちっていいな」という思いをふくらませたい。	※学校生活を共に過ごす友達の存在について考え、友達と仲よく活動し、助け合って過ごそうとする心情を育てる。 ○転校したばかりのくじゃくは、みんなに囲まれてどんな気持ちでいるのだろう。 ○遠足で先頭の役目を任されたくじゃくはどんな気持ちだったでしょう。 ◎遠足でくたくたのくじゃくが最後笑顔だったのはどうしてだろう。	生活科 「レッツゴー！葉山たんけんたい」 図工 「ともだちハウス」 体育 ゆうえんちへいこう	<終末> P. 74、75 の言葉に児童の写真を入れて、電子黒板に映す。	保護者・地域の方の参画	教材（ ）

六月 (第二週)	自然愛護	[生きものにやさしく] 8. 虫が大好きーアンリ・ファーブルー (わたしたちの道徳)	少年のころから虫が大好きでいろいろな虫に興味をもって観察したり、たくさんの疑問を持ち、調べたりするファーブルの姿から生き物に愛着をもって接し、動植物を大切にすることについて考えさせたい。	※身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接しようとする態度を育てる。 ○アリを見ているファーブルは、どのようなことを考えていたでしょう。 ◎観察を終えて、ファーブルは、どのような思いで虫を逃がしていたのだろう。	国語 「スイミー」 音楽 「はくのながれとリズム」	P. 106～109 を読む。	保護者・地域の方の参画	教材 ()
六月 (第三週)	よりよい学校生活、集団生活の充実	[学校のよいところ] 9. なくなった本 (きみがいちばんひかるとき)	学校生活は、児童が社会生活を営む上での基礎となる。学校生活をよりよくするためには、学校に関わる人々との関係を大切にすることが重要となる。この段階では、困ったときに優しくしてもらった経験を思い起こしながら、学校のみんなに支えられていることに気づき、学校生活の良さを楽しむ態度を育てていきたい。	※学級の仲間、先生、上級生などの優しさに気づき、学校生活のよいところを楽しむ態度を育てる。 ○「わたし」は、クラス みんなが一緒に本をさがしてくれたとき、どんな気持ちだったでしょう。 ○大好きなカレーが食べられなかった時、どんなことを考えていただろう。 ◎「わたし」は嬉しくて、お姉さんのそばにかけよった時どんな気持ちだったでしょう。		<終末> P. 144～149 を活用する。	保護者・地域の方の参画	教材 ()
六月 (第四週)	希望と勇氣、努力と強い意志	[やりぬく心] 10. さかあがりできたよ (みんなたのしく)	くじけず努力し、自分を向上させる児童を育てようとする内容である。つらいことやつまらないと思ってやめようとする気持ちを克服して、物事を最後までやり遂げたときの喜びが、自己を正しく成長させることになる。結果だけでなく、そこに至るまでの努力の大切さを考えるようにしたい。	※自分で決めたことについては、やり遂げようとする態度を育てる。 ○一人で逆上がりの練習をしている時、どんなことを考えていただろう。 ◎やっと一回できた時、どんな気持ちになっただろう。	体育 「みずあそび」	<終末> P. 25 の児童の日記を活用する。	保護者・地域の方の参画	教材 ()

七月 (第一週)	規則の尊重	[きまりをまもる] 11. めいわくダンプ (みんなのどうとく)	基本的生活習慣を身につけることは、児童の人間形成において大変重要である。本主題においては安全に気をつけることを通して、わがままをしない事の大切さを考えさせることに焦点を当てた。また、他人を尊重するためにも節度を心掛けることが大切であることに気付かせたい。	※みんなのことを考えて、公共のきまりや約束を守ろうとする心情を育てる。	「避難訓練」		保護者・地域の方の参画	教材 ()
				○ダンプカーは狭い道をどんな気持ちで走っていたか。 ○赤いスポーツカーを追い越したとき、ダンプカーはどんな気持ちだったか。 ◎崖下に落ちたダンプカーは、どんなことを考えたり思ったりしただろうか。				
七月 (第二週)	個性の伸長	[よいところを見つけたよ] 12. まんががすきーまんが「ササエさん」を作った長谷川町子ー (わたしたちの道徳)	ほめられてうれしかったことが自分のよさや長所につながる。さらに、自己肯定感を高め、良いところをいっそう伸ばしていこうとすることでより自分らしい生活や生き方ができる。児童が自分らしい生活や生き方について考え、よさや長所を伸ばしていこうとする意欲を高めていきたい。	※自分のよさに気づき、よい所を伸ばしていこうとする意欲を育てる。		P. 162～P. 165を読む。	保護者・地域の方の参画	教材 ()
				○おもしろいことが思いつかず、上手く漫画が描けない時、町子さんはどんなことを考えたでしょう。 ◎亡くなるまで、自分の好きな漫画を描き続けた町子さんのことをみなさんは、どう思いますか。				
九月 (第一週)	善悪の判断、自律、自由と責任	[そうだんするゆうき] 13. 先生、教えて (みんなのどうとく)	自分の生き方を決める時など人は、一人で考え込みがちである。誰かに相談したり生き方や正しい判断についてのアドバイスを受けたりすることは恥ずかしいことではなく大切に勇気のいることだという認識をもたせたい。	※よいことと悪いことの判断に迷ったとき、周りの人に相談し、解決しようとする態度を養う。		<終末> P. 32、33 を活用する。	保護者・地域の方の参画	教材 ()
				○6年生が店のものを盗のを見たとき、ぼくはどんなことを思っただろう。 ◎先生に相談したぼくをみんなはどう思いますか。				
九月 (第二週)	親切、思いやり	[あいてのほんとうのきもちは?] 14. 公園のおにごっこ (みんなのどうとく)	人間関係が希薄になりがちな現代社会において他の人との関わりは大切なことである。特に「相手の気持ちを推し量る」ことは温かな人間関係を気付く上で欠かせない。お互いが相手のことを思いやり、親切にしようと努力し、協力することで、楽しく生活ができることを理解させることが大切である。そして、相手の立場や気持ちを考えて親切にし、より良い人間関係を築ける人間の育成を図りたい。	※相手の本当の気持ちを考えて、親切にしようとする心情を育てる。	生活科 「レッツゴー！葉山たんけんたい」 「ふれあい参観日」	<終末> P. 66、67 を活用する。	保護者・地域の方の参画	教材 ()
				○ゆうたが「ぼくも入れて」と言ってきた時、しんじはどんなことを考えただろう。 ○ゆうたがジャングルジムの方へ行ってしまったときのしんじは、どんな気持ちだっただろう。 ◎しんじもゆうたもみんなが楽しく鬼ごっこができたのは、なぜだろう。				

九月 (第三週)	希望と勇氣、 努力と強い意志	[最後まであきらめないで] 15. ぴよんたくんのゴール (2年生のどうとく)	科学技術の発達などにより便利で快適な生活ができるようになった反面、人々は、安易さに慣れ、忍耐力が弱まったり、努力することが軽視されたりしている。じつくりと取り組むことよりも目先の結果が重視される傾向もある。そこで自分の目標や夢の実現に向けて努力を重ねる前向きな姿勢の大切さに気づかせ、やり遂げる充実感や満足感を振り返らせ、主体的に最後まで頑張ろうとする心情を育てたい。	※最後までやり抜こうとする心情を育てる。	算数 「計算のしかたをくふうしよう」 「ひっ算のしかたを考えよう」 「2学期のめあてと係をきめよう」 体育 「プールおさめ」 生活目標 「運動会の練習をがんばろう」 「大運動会」		大運動会 保護者・地域の方の参画	教材 ()
				○マラソン大会の前日、ぴよんた君はどんな気持ちだったでしょう。 ○みんなが、どんどんぴよんた君を追い抜いて行った時、ぴよんた君はどんな気持ちだったでしょう。 ◎りすのこりんちゃんの背中をじっと見つめていたぴよんた君はどんなことを考えていたでしょう。				
九月 (第四週)	節度、節制	[ものをたいせつに] 16. ノートのひこうき (みんなのどうとく)	欲しい物は比較的簡単に手に入る世の中で、物や金銭を大切にしようとする意識が薄れがちである。しかし、ゴミの分別収集、廃品回収などのリサイクル運動が行われ、限りある資源を大切に使うとしている今日において、物を大切にすることを育てることは一層重要になってきている。	※学級の仲間、先生、上級生などの優しさに気づき、学校生活のよいところを楽しむ態度を育てる。		P. 10～15	わたしたちの道 P. 13 に記入し、家庭に持ち帰り、コメントを書いてもらう。 保護者・地域の方の参画	教材 ()
				○ゆきおくんが丁寧に字を書いた時、ノートの紙はどんな気持ちだったでしょう。 ○ゆきおくんいきなり破かれた時、どんな気持ちだったでしょう。 ◎泥んこになったノートの飛行機はゆきおくんがどんなことを言いたがっているでしょう。				
十月 (第一週)	公正、公平、社会主義	[みんなとなかよく] 17. みんなとなかよく (わたしたちの道徳)	日常生活において、何気ない言動に表れる差別や偏見の芽を見逃さないように心掛け、「いじめ」に発展することのないように指導していくことが大切である。常に相手の気持ちを考え、行動することの大切さを感じさせ、「いじめ」を絶対に許さない心と力を育て、よりよい集団やいじめのない風土を醸成していきたい。	※自分の好き嫌いにとらわれることなく、してよいこととしてはいけないこととの区別をつけて行動する態度を育てる。		P. 166、167 のコラムを活用する。	保護者・地域の方の参画	教材 ()
				○してよいこととしてはいけないことは、どれか、考えましょう。 ◎してはいけないことをしている人たちを見て、どんなことを考えますか。				

十月 (第二週)	家族愛、 家族生活の充実	[おかあさん、ありがとう] 18. きつねと ぶどう (みんなのどうとく)	良い人間関係の根底には、相手に対する尊敬と感謝の念が必要である。まわりの人々によって助けられて、自分が存在するという認識を持つことにより尊敬と感謝の念がお互いに生まれてくる。この時期においては、身近で日頃世話になっている人に目を向け、感謝する気持ちをもつことができるよう指導することが重要である。	※身近で世話をしてくれる人々の愛情に気づき、感謝する心情を育てる。 ○子ぎつねが「お腹が減った」と泣くのを見て、親ぎつねはどんなことを考えたでしょう。 ○親ぎつねの声を聞いた時、どんなことを考えたでしょう。 ◎昔の巣の近くに、ぶどうがなっている理由に気付いた時、子ぎつねはどんなことを考えていたでしょう。		<導入> P. 82、83 を活用する。	保護者・地域の方の参画	教材 ()
十月 (第三週)	礼儀	[あいさつで明るい生活] 19. あいさつきらいな王様 (みんなのどうとく)	挨拶は、人間関係を円滑にしより豊かな社会生活を営む上で欠かせないものである。相手に対して、礼儀正しい行動で、接することによって相手も心を許して向き合おうとする意欲が生まれる。そうすると、自分も相手も気持ちよく過ごすことができるようになる。そこで、心のこもったあいさつや動作を心掛けることの大切さを理解し、実践できるようにしていきたい。	※気持ちのよい挨拶や言葉遣い、動作に心掛けて明るい生活をしようとする態度を育てる。 ○挨拶を禁止した王様は、どんな気持ちだったでしょう。 ○町へ出て、人が一人もいないのを見た王様は、どんなことを考えたでしょう。 ◎みんなに謝って、にこにこ笑顔になった時の王様はどんな気持ちだったでしょう。			保護者・地域の方の参画	教材 ()
十月 (第四週)	家族愛、 家族生活の充実	[楽しい家庭] 20. だっておにいちゃんだもん (みんなたのしく)	日々の家庭生活は、家族の存在と愛情に支えられている。しかし、児童が、父母、祖父母、兄弟等の愛情を意識する機会は少ない。そこで、そのありがたさについて考えて、感謝と敬愛の情をもてるようにするとともに、自分から進んで家族のためを考え、役立つことをしようとする気持ちを育てたい。	*家族に対して、感謝の念や親愛の念をもち、家族の役に立とうとする心情を育てる。 ○授業参観に来てくれなかったお母さんに対して、聡はどう思ったでしょう。 ○さとしは、どんな気持ちから、先ちゃんの世話をしたのでしょ。 ◎「だってお兄ちゃんだもん」と言ったさとしはどんなことを考えていただろう。		<終末> 事前に P. 139 にお家の人からメッセージを書いてもらい、紹介する。	事前に、わたしたちの道徳 P. 139 にメッセージを書いてもらう。 保護者・地域の方の参画	教材 ()

十一月 (第一週)	正直、誠実	[すなおにのびのびと] 21. お月さまとコロ (わたしたちの道徳)	自分が悪いことをしたと思いつながる。素直に謝れないという経験は、低学年の児童たちにもありがちなことである。謝りたくても謝る勇気がなかったり人目や自分の利害を考えたりして素直になれないことがある。そこで、素直に謝ったり、素直に話したりした時のすがすがしい気持ちを感じさせることで、正直に行動すると明るい心で生活できるということに気づかせていきたい。	※コロの気持ちの変化を考えることを通して嘘をついたりごまかししたりしないで、明るく素直に生活しようとする態度を育てる。 ○なかなか謝ることができないコロは、どんなことを考えていたのでしょうか。 ○露の玉に映っている自分の顔を見て、涙を流したコロは、どんな気持ちだったでしょう。		P. 48～51 を読む。	保護者・地域の方の参画	教材 ()
十一月 (第二週)	自然愛護	[動植物に優しい心で] 22. イチョウのこえ (ふるさとの志)	身近な自然の中で、遊んだり動植物の飼育・栽培をしたりする活動が、児童の豊かな情操を育む土台となる。自然のもつ不思議さや生命力、そしてともに生きていることの愛おしさなどを生活科の学習や遊びを通して、実感することで自然や動植物を大事に守り育てようとする気持ちが育まれる。生活科や体験学習とも合わせて、動植物を大切にしようとする態度を育てていきたい。	※枯れていくイチョウの木を何とか助けようとするおじいさんの姿を通して、身近な自然に親しみ、優しい心をもって、動物や植物を大切にしようとする態度を育てる。 ○舞い落ちる枯れた葉っぱをじっと見つめていたおじいさんは、どんなことを考えていたでしょう。 ○おじいさんは、力を込めて土を掘り返しながらどんなことを思っていたでしょう。 ◎小さな小さなイチョウの芽を見つけた時、おじいさんは、どんなことを思ったでしょう。	生活科 「ぐんぐん伸びろ」 「レッツゴー！葉山たんけんたい」 「収穫祭」		収穫祭 地域の方にゲストティーチャーとして話をしてもらう。 保護者・地域の方の参画	教材 ()
十一月 (第三週)	正直、誠実	[心で感じるすっぱさ甘さ] 23. みかんの木の寺 (みんなのどうとく)	「心の健康」を考えると、誠実・明朗の大切さが再検討される。正直に行動することは、自分に対しても人に対しても、明るい心で生活することにつながる。勇気・公德心、規則の尊重と、深く関わりをもつ価値である。	※ごまかしをしない明るい心で生活しようとする心情を高める。 ○「こら」っと声がして逃げた後、いちろうたちはどんなことを考えただろう。 ○みかんの木にみかんが一つもないのを見たとき、いちろうたちは、どんなことを考えただろう。 ◎「おいしくなったよ。みんなでおいしくねすんで食べたらすっぱいすっぱい」という紙を見て、どんなことを考えたでしょう。		<事後指導> のびのびと明るい気持ちで過ごせた日には、P. 47 のひまわりの花びらをぬるようにする。 (期間を決めて行う)	記入できたら、家庭に持ち帰り、お家の人にメッセージを書いてもらう。 保護者・地域の方の参画	教材 ()

十一月 (第四週)	国際理解、 国際親善	[世界の人々といっしょに] 24. ほかの国のことを知ろう (わたしたちの道徳)	現在、いろいろな国の食べ物やスポーツ、遊びなど、身近なところで他国のものと接してはいるものの、児童は、それが自国のものであるか、他国のものであるのかは、ほとんど知らない。そこで、身近にある他国の文化に目を向けさせるとともに、その国について親しみをもったりそのよさに気付いたりできるようにしていきたい。	※他国の人々や文化に親しみをもとうとする態度を育てる。 ○オリンピックやパラリンピックについて知っていることを話しましょう。 ◎ほかの国から来たものには、どんなものがありますか。		P. 170～172 のコラムを活用する。	保護者・地域の方の参画	教材 ()
十二月 (第一週)	節度、 節制	[お金をたいせつにする] 25. 三べん考えて (ゆたかなころ)	物や金銭などの物質的な価値や快楽が優先される社会風潮の中、児童もつい「あれも欲しい、これも欲しい」とよく考えずに次々と物を購入している姿が見られる。自主性が育ってくるこの時期に物や金銭を大切にしていこう態度を身に付けさせていきたい。	※物や金銭を大切に、有効に活用しようとする態度を育てる。 ○おもちゃ屋でしばらくじっとみているあつしは、どんな気持ちで見ているのでしょうか。 ○お兄さんに「良く考えて決めようよ」と言ったあつしはどんなことを考えていたでしょう。 ◎ゲームが買えなくなってしまったのに、気持ちがすっきりしていたのはなぜでしょう。			保護者・地域の方の参画	教材 ()
十二月 (第二週)	生命の尊さ	[命のありがたさ] 26. たんじょう日 (みんなたのしく)	生命を尊重することは、すべての教育の基本である。自他の生命の尊さを心から理解するとともに、動植物の生命等を慈しむことのできる児童を育てていく必要がある。生命への畏敬の念を持たせ、生きることの尊さ、すばらしさをこの時期から十分感得させていきたい。	※命の尊さに気づき、大切にしようとする心情を育てる。 ○保育器の中にいるなつこに40日間も毎日おちちを届けていたお母さんの話を聞いてなつこはどんな気持ちだったでしょう。 ◎なつこの誕生日を喜んでくれるお母さんを見て、なつこはどんなことを考えたでしょう。	生活科 「大きくなったぼく・わたし」 「避難訓練」	<導入> P. 90 を活用する。	授業後、「高知の道徳」を持ち帰り、P. 49 に記入してもらおう。 保護者・地域の方の参画	教材 ()

十二月 (第三週)	よりよい学校生活 集団生活の充実	[楽しい学校] 27. 学校大好き (みんなのどうとく)	自分の通っている学校が楽しい所であり、大好きであるという愛校心を育てることが大切である。児童が楽しい学校生活を過ごすためには、自分を支え励ましてくれる学校の様々な人々に目を向けさせ、学校や学級にいるよさを感じ取らせることが大切である。	※学校での様々な場面で学校の人々に親しんで学級や学校生活を楽しくしていこうとする心情を養う。 ○みんなと勉強している時、まさみさんはどんな気持ちでしょう。 ○まさみさんは校長先生や学校の先生とどんな顔で話をしているでしょう。 ◎学校のことを手紙に書いている時まさみさんはどんなことを考えていたでしょう。		<終末> P. 146～147 <事後指導> P. 146	学級会で「学級をよくするために、みんなのできること」について話し合ったことを持ち帰り、お家の人に P. 147 に記入してもらう。 保護者・地域の方の参画	教材 ()
一月 (第一週)	礼儀	[ここをつなぐありがとう] 28. ぼっかばか (みんなのどうとく)	人間関係が希薄になり、近所の人々とも挨拶を交わすことが少なくなってしまった現代社会において、人と人の心をつなぎ、より良い人間関係を回復する鍵となるのが挨拶である。具体的な指導により挨拶の気持ちよさを感じ取らせ、誰とでも、明るく接することが出来る児童を育てていきたい。	※挨拶の気持ちよさに気付き、進んで挨拶をしようという心情を育てる。 ○なおとくんとけんかをして、一人で帰るときどんな気持ちだったろう。 ○おばあさんに「ありがとう」と言われた時ともくんはどんな気持ちになっただろう。 ◎なおとくんと二人で笑いあえたとき、ともくんはどんなことを考えたでしょう。	始業式 学級会 「言葉づかいに気をつけよう」	<終末> P. 59 を活用する。	保護者・地域の方の参画	教材 ()
一月 (第二週)	希望と勇氣、努力と強い意志	[自分でやることはしっかりと] 29. 小さな努力の積みかさね (わたしたちの道徳)	何事にも粘り強く取り組むことや、諦めずに最後まで努力し続けることは、大切なことであるが、目標を達成する過程においては、苦しいことや辛いこともあり、途中で、くじけそうになったりやめたいと思ったりすることもある。しかし、困難を乗り越え、やり遂げた時の喜びは大きい。ここでは、努力することの大切さや努力する過程であきらめそうになる心の弱さについて深く考えさせることで、価値理解や人間理解を深めていきたい。	※自分がやらなければならない勉強や仕事をしっかりと行おうとする心情を育てる。 ○おじさんの言いつけを守って、一日中しっかりと働く金次郎は、どんなことを考えていたでしょう。 ○おじさんに叱られたとき、金次郎は、どんなことを考えたでしょう。 ◎20 才の時に自分の家を作り直すことができた時、金次郎は、どんな気持ちだったでしょう。	3 学期のめあてと係をきめよう 算数 「1000 より大きい数をしらべよう」 「長さをはかろう」 体育 「なわとびあそび」	P. 28～31 を読む。	保護者・地域の方の参画	教材 ()

一月 (第三週)	伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する心	[ふるさとに親しみをもって] 30. ぎおんまつり (わたしたちの道徳)	地域には、それぞれの特性は違っても、さまざまなよい所がある。また、地域に暮らす人々のの関わりの中で、それぞれに郷土を愛する心が育ってくる。郷土の自然、文化、行事、人々との触れ合いを通して、郷土へのよさに気づき愛着を高めることができるようにしていきたい。	※自分たちの住む郷土の文化や生活に愛着をもち、楽しく生活していこうとする心情を育てる。 ○「ぎおんまつ」のために、かねの練習をする「ぼく」はどのような気持ちでしょう。 ◎お祭りの日に「ほこ」の上でかねをたたっている「ぼく」は、どんな気持ちでしょう。		P. 154～157 を読む。	ゲストティーチャーとして地域の方に葉山のいいところについて話をしてもらう。 保護者・地域の方の参画	教材（ ）
二月 (第一週)	親切、思いやり	[温かい心で] 31. ぐみの木と小鳥 (きみがいちばんひかるとき)	相手の願いを考えて、かなえてあげようとする優しい気持ちに共感し、誰に対しても優しい気持ちで接していこうとする態度を育てていきたい。	※誰に対しても自分にできることは、精一杯してあげようとする気持ちを育てる。 ○ぐみの木から、リスさんがこの頃姿を見せないと聞いた時、小鳥さんは、どんなことを思ったでしょう。 ◎「ご親切は、いつまでも忘れません」と言われ、小鳥さんは、どんな気持ちでしたでしょう。			保護者・地域の方の参画	教材（ ）
二月 (第二週)	勤労、公共の精神	[はたらくことのよさをかんじて] 32. 森のゆうびん屋さん (わたしたちの道徳)	低学年の児童は、学校での掃除当番や係活動を楽しんでいることが多い。そのような中で「困難なことがあっても誰かのために役立とうとすることの尊さ」について気づかせていきたい。	※働くことのよさを感じ、進んでみんなのために役立とうとする心情を育てる。 ○雪の日、やぎじいさんの家に、急ぎ足で小包を運ぶくまさんは、どんなことを考えていたでしょう。 ◎手紙を読んだくまさんは、どんなことを考へていたでしょう。	生活目標 「自分の係の仕事をがんばろう	P. 134～137 を読む。	保護者・地域の方の参画	教材（ ）
二月 (第三週)	感動、畏敬の念	[本当の美しさ] 33. せかいでいちばんうつくしいこえ (2年生のどうとく)	美しいものに触れると心が表れ、清らかで和やかな気持ちになる。自分たちの身の回りには、美しく清らかなものがあることに気づかせ、素直に感動する心を豊かにしていきたい。	※美しいもの、きよらかなものに接し、すがすがしい心を大切にしようとする心情を育てる。 ○王様は、うぐいすのために金の鳥かごを作っている時、どんなことを考えていたでしょう。 ○王様は、お城からうぐいすを追い出した時どんなことを考えていたでしょう。 ◎うぐいすの歌声を聞いて、涙を流した王様は、どんなことを考えているでしょう。	「雪あそび」		保護者・地域の方の参画	教材（ ）

三月 (第一週)	感謝	[かんしゃするところ] 34. ふえを ふいて (みんなのどうとく)	社会の様々な変化の中で、人間関係の希薄化が言われている。よい人間関係を築いていくためには、お互いを認め合うことが何より大切である。そのためにも、相手に対して尊敬と感謝の気持ちをもって接することが求められる。そこで、日頃世話になっている人々に感謝の気持ちを持って接することの大切さを自覚させていきたい。	※日ごろ世話になっている人々に感謝の気持ちをもって接しようとする態度を育てる。 ○毎朝、青田おじさんの言葉をぼくはどんな気持ちで聞いていたでしょう。 ○黙って横断歩道を歩いているぼくは、どんなことを考えながらわたっているのでしょうか。 ◎力を込めて拍手を送るぼくは、どんなことを考えていたのでしょうか。	「6年生を送る会」 生活科 「レッツゴー！ 葉山たんけんたい」 「6年生を送る会」 「卒業式」	<終末> P. 84、85 を活用する。	街頭指導をいつもして下さっている地域の方にゲストティーチャーとして話をしてもらう。 保護者・地域の方の参画	教材（ ）
三月 (第二週)	友情、信頼	[助け合う友達] 35. こまのプレゼント (みんなのどうとく)	自分と異なった考え方、行動をする友達とでも認め合い、助け合っていくことが大切である。また、自分の感情を抑え、友達としてどう接していくかを、冷静に見つめる力を育成していくことも必要である。この時期の児童は、まだまだ、自己中心的な行動が見られ、何かトラブルがあれば悪いのは、相手だと訴えてくる。そうした児童が、友達と仲良く、助け合っていくには、どうすればよいのか、深く考えられるようにしていきたい。	※友達のよいところに目をむけて、互いに助け合っていくことの大切さを理解し、どんな場面でも友だちと仲良くしていこうとする気持ちを育てる。 ○まきちゃんが教室を出て行った後、何もいわずにまきちゃんの作ったこまを見つめているけんちゃん、どんなことを考えていたでしょう。 ◎みんなでいっしょに折り紙を折っている時けんちゃんは、どんなことを考えていたでしょう。	国語 「楽しかったよ、二年生」 図工 「ともだち見つけた！」 体育 「サッカーゲーム」		保護者・地域の方の参画	教材（ ）